

協働事業チェックシート【市行政用】

作成日：27年6月26日

(1) 事業内容

事業名	印西市市民活動支援センターの管理運営	担当部署	市民部市民活動推進課
事業概要（目的・内容・実施方法等）			
（目的）印西市市民活動支援センターの管理運営業務。			
（内容）印西市市民活動推進条例で規定される市民活動を支援する施設として、情報・活動場所の提供、各種講座・イベント事業等を実施する。			
（実施方法）公の施設の管理運営（指定管理者制度）			

(2) 事業チェックシート

※各チェック項目の達成度を3段階で評価し○印を記載する。

STEP	チェック項目	大←達成度→小			補足コメント	
		達成できた	概ね達成できた	達成できなかった		
1 目的	事業に関する情報は誰にでも分かりやすく提供されていたか	○			協定書や仕様書により、事業の内容を定めている。また、指定管理者による運営である点は、公募時から市広報、HP等を通じ、市民に必要なに応じて発信している。	
	事業の目的や成果が明確にされていたか	○				
	事業手法として協働を取り入れる理由が明らかになっていたか	○				
	受益者に関する情報を入手・分析することによって社会的な課題をより明確にすることができたか		○			市民意識調査や、市民活動支援センターのアンケート結果を参照し、情報の把握に努めた。
	チェック個数	3 個	1 個	個		
2 形態	事業に時限性を設定し、他の市民活動団体の参入の機会を保障しているか	○			平成26年度は指定管理期間（3年）の最終年度にあたる。	
	適切な協働事業の形態を選択することができたか	○			市の方針として指定管理を実施しており、設置管理条例により運営方法を定めている。	
	チェック個数	2 個	個	個		
3 相手の選択	事業の目的や性格に照らして、多様な主体間での公正で透明性のある競争原理を確保することができていたか	/				
	市民活動団体の特性や社会的な役割を理解した上で、協働事業の相手として妥当であったか。また、その役割分担は妥当であったか	○			平成27年度より、指定管理者選定委員会においてモニタリングを実施する。	

	チェック項目	大←達成度→小			補足コメント
		達成 できた	概ね達成 できた	達成でき なかった	
3 相手の 選択	協働の相手を市民活動 団体に限る場合、市民活 動団体以外の相手を選 択しない理由は明確に なっていたか				市民活動団体には限定 されない。
	事業の公募は、適切であ ったか				
	事業の選考は、適切であ ったか				
	チェック個数	1 個	個	個	
4 事業の 実施	事業の進捗に対して、中 間報告を受けたり、現地 に赴くなど、その状況を 確認したり、パートナー 双方が自由に意見交換 を行ったりしたか	○			月例の報告書及び打合 せに加え、必要に応じて 施設を訪問したり、事業 を見学するなど、連絡を 密に行った。
	契約や協定のプロセス は適切であったか	○			基本協定書に基づき年 度協定書を締結した。
	予期せずに発生した問 題・課題に適切に対応で きたか	○			懸案事項等はその都度 報告を受け、問題解決に 取り組んだ。
	受益者や市民に対して 適切な広報が行われた か	○			施設HPや広報紙に加 え、市HPや広報紙も活 用し、情報発信を行っ た。
	事業の目的や性格、期待 する成果をパートナー 双方が十分共有してい たか	○			事業計画や事業報告、ま た月例打合せ等により 共有を図った。
	チェック個数	5 個	個	個	
5 事業の 評価	事業で設定した課題を 解決するため、この手段 となる社会サービスの 担い手を新たに広げ ることにつながったか		○		施設利用者や登録団体 は増加しており、一定の 成果は認められる。
	市行政への市民参加を 促進することにつなが ったか		○		
	パートナー双方が、評価 に対して自由に意見を 述べることができたか	○			月例打合せ等により、各 事業の目的や目標を確 認しあい、また事業の評 価について忌憚のない 意見交換を行った。
	事業目的や目標は妥当 なものであったか	○			
	市民活動団体の特性が 生かされ、協働でより良 い効果が得られたか	○			中間支援団体としての 特性やネットワーク等 を活かした運営を実施 した。

	チェック項目	大←達成度→小			補足コメント
		達成できた	概ね達成できた	達成できなかった	
5 事業 の 評価	市民自ら社会サービスを生み出す主体になれる可能性を増やすことができたか	○			市が基盤整備を担い、地域の中間支援組織が主体となった市民サービスを提供することができた。
	市民の自助力をアップすることによって、コミュニティの再構築につながることができたか		○		
	新しい地方分権時代における市行政の役割を再構築する協働の実現が図れたか		○		
	チェック個数	4 個	4 個	個	
6 事業 の 見 直 し	事業を定期的に見直しているか	○			事業計画策定時に前年度の反省を踏まえた計画づくりに取り組んだ。
	評価結果を出す過程や、それを受益者や市民と共有する過程は適切であったか		○		市民活動推進委員会で報告を行い、会議の結果を市HP、行政資料室で公開した。
	評価結果を、次の事業にフィードバックさせる仕組みは適切であったか		○		
	チェックシートは事業の改善に結び付いたか	○			
	評価結果を受益者や市民と共有することに努めているか		○		指定管理者が実施したアンケート等の結果は登録団体に報告した。
	評価結果に対する受益者や市民のニーズや意見を、新たな事業の企画や既存の事業の見直しに生かすことができたか	○			
	チェック個数	3 個	3 個	個	

## 担当課所感

中央駅前地域交流館 2 号館に移転してから 3 年目を迎えるとともに、指定管理期間（3 年）の最終年にもあたり、公募指定管理者による運営のひとつの集大成の年となった。利用者は年間延べ 7, 0 0 0 人（移転前 3, 1 4 3 名、当初目標 5, 0 0 0 人）に達し、登録団体も 3 月末現在で 9 9 団体（移転前 6 1 団体、当初目標 1 0 0 団体）に増加するなど、当初の目標をほぼ達成した点は評価される。企画事業についても、概ね事業計画に沿い、滞りなく事業が実施された。

利用者からの様々な意見・要望や相談に対しては、概ねこれまでの経験に基づく丁寧な対応が行われた。一方で、以下で述べるように、指定管理者の組織ガバナンスについては課題が残った。

全体としては、年間を通して安定した管理運営が行われたものと考えられる。

### 1. 成果

#### （1）各種事業

- ・受け入れ団体を増やし、夏休みボランティア体験プログラムを実施した。
- ・新規利用者拡大を目指し、一般市民向けにだんごくらぶ（ミニ）を実施した。
- ・事業計画に基づき、各種の市民活動専門講座を実施した。
- ・新たな情報提供ツールとして、メールマガジンの発行を行った。

#### （2）交流の場の提供

- ・だんごまつり（市民活動まつり）は支援センターが主催し、登録団体連絡会を連絡調整の場として準備を進めた。実施により、団体交流、市民活動の普及に一定の成果を得ることができた。同時開催した中央駅前地域交流会サークル懇話会ともよく連携協力して事業を実施した。
- ・情報共有・連携の場として、団体情報交換会を 6 回実施した。

#### （3）管理運営

- ・配置スタッフ 2 名に加え、指定管理者理事長が多くの開館日に出勤していたため、実質スタッフ 3 名態勢の手厚い体制で運営された。

### 2. 課題

#### （1）連絡調整

- ・中央駅前地域交流館管理者との連絡調整について、駐車場の使用などで円滑な意思疎通を欠くことがあった。

#### （2）指定管理者の管理運営体制

- ・指定管理者が行う市民活動中間支援業務は全般的に理事長への依存度が高く、組織としての適切な支援体制や役割分担の構築に課題が残った。
- ・専門的な相談や事業の企画立案は理事長が担うことが多く、運営スタッフのコーディネート能力育成に課題が残った。

#### （3）情報の提供

- ・facebook の活用について、団体間の情報交換ツールとして活用された一方、一方的な意思表示や攻撃的な書き込みが見られるなど、運用には課題が残った。